

「R u b y b i z グランプリ2016」に、多くの皆様にお越しいただき、このように盛大に開催できますことを、大変うれしく思います。

経済産業省をはじめ、開催にあたりご支援をいただきました皆様に心より感謝申し上げます。

さて、R u b y は、2012年に国産のプログラミング言語では初めて国際規格として認証されたことによりまして、より一層、世界へビジネス展開しやすくなりました。

島根県では、「しまねソフト研究開発センター」を中心としまして、県内 I T 企業と連携しながら、I T 分野での技術発展と、県内産業での高度な I T 活用による新たなビジネス創出を目指して、取り組みを進めています。

また、R u b y の普及、ビジネス利用の拡大にも力を入れており、先月には 8 回目となる国際会議「RubyWorld Conference2016」を松江市で開催し、国内外から約1,000名の皆様にご参加いただきました。

今回 2 回目となるこのグランプリでは、R u b y を活用して、ビジネスで新たな価値を創造し、イノベーションを起こした事例を表彰致します。

こうした革新的な企業の挑戦を世界に発信することで、R u b y によるビジネスの一層の拡大を支援してまいります。

今回も、国内外から29事例の応募があり、R u b y の生みの親、「まつもと ゆきひろさん」を審査委員長として、優秀な 8 事例を選考しました。

本日、その中から、大賞をはじめとした各賞を発表させていただきます。

いずれも、R u b y の特徴を活かし、技術やサービスの独創性、そして将来性に富む優れたビジネス事例でございます。

また、惜しくも受賞を逃した応募事例も、I T ビジネスの未来を予感させる多様な内容になっておりまして、

それぞれサービス開発に携わった関係の皆様方の努力の結晶であります。

去年の第1回受賞事例や、今日の最終選考にノミネートされた事例の中には、「Forbes JAPAN」が選出した「日本の起業家ランキング2017」ベスト10に選ばれた企業も含まれており、世界を変えるRubyを活用したITビジネスの可能性に、大いに期待しているところであります。

終わりに、このグランプリが、「Ruby」のさらなる発展と新たなビジネス展開の契機となり、皆様にとって実り多きものとなりますようご祈念申し上げ、ご挨拶と致します。